志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒
「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和４年度10月号
令和4年10月3日(月)

志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

トイレに見る心遣い

校長　三杉　紀文

２学期の始業式で生徒に、２学期開始にあたって心して欲しいこと２つのうち、１つ目として新型コロナウイルス対策の話をしたところでしたが、９月は新型コロナウイルスの感染拡大が続いてしまいました。１年生、２年生が相次いで学年閉鎖となり、これに伴って校外学習もそれぞれ延期せざるを得ませんでした。また、学校では各ご家庭との生徒の健康状況の確認や給食・授業等の変更・調整、教育委員会との連絡などに追われる状況がありました。ご家庭でも引き続き、毎日の検温と健康観察の上、生徒本人や同居されている方に風邪症状等がある場合は登校しないことについて、ご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、この10月で、今年度の折り返しを迎えます。学校だより５月号にも書かせていただきましたが、私は４月に本校に着任して以来、本校に度々驚かされてきました。今回、紹介するのはそのうちの一つ、トイレです。

まず本校のトイレは、洋式トイレが完備されています。これ自体、私が今まで勤務してきた学校の中では初めてです。照明も自動の点灯・消灯機能が付いていて、今までの勤務校から考えると夢のようなトイレです。しかし、私が最も驚かされたことは、それとは別の２つです。

１つは、トイレットペーパーが三角折りされているトイレがいくつかあるということです。ホテルや飲食店、時には公共施設などでトイレットペーパーの先端が三角に折られているのを見たことはありましたが、学校のトイレで三角折りされているのを私は本校で初めて見ました。最近は、新型コロナウイルス感染リスクなどの面から、三角折りをしない方がよいという意見もありますが、少なからず次に使う人のことを考えての行為であることが伝わり、その心遣い自体にとても驚かされました。

もう１つは、トイレの中に貼ってある掲示物です。本校のトイレの中には、数年前に保健委員会で作成された「あと見癖」というタイトルの掲示物が貼ってあります。この掲示物には、こうあります。「あと見癖というのは、うしろを見る習慣ということです。水を流し、すぐにドアの外に出るのではなく、もう一度自分の使ったあとを点検しようということです。すぐ後から使う人の身になって点検してみましょう。…あと見癖は、トイレに限ったものではありません。更衣室での更衣の後の衣類の始末・玄関で靴を脱いだ時・洗面所やお風呂場を使ったあとなど、色々な場面に必要です。」この内容が私にはとても響きました。

確かに使った後にこそ、その人が出るのかもしれないなと思わされました。そして次の人を考えての心遣いに積極的に着眼しようというメッセージに、本校で培われてきた伝統的な内面の美しさを感じます。